

大岡の風 11月



令和7年10月31日
横浜市立大岡小学校
TEL (711) 0818
FAX (713) 3563

「想像力を豊かに」

校長 馬渡 照代

ようやく「猛暑日」から解放され、過ごしやすい毎が続いています。しかし、最近秋が短くなった、と巷間、言われていますので、もう少し秋にはゆっくり過ぎてもらい「〇〇の秋」を堪能したいと思っています。

以前も触れさせていただいたかと思いますが、私は、野球が大好きです。シーズン中は、日本やアメリカの試合が毎日見られ、選手たちの活躍に一喜一憂しています。そんな中、特に私が好きなのは、高校野球です。小学1年生の頃から高校野球に親しみ、夏休みの宿題の絵日記には、高校野球の開会式で、神奈川代表のT.S高校が、入場行進している場面を描いたほどです。高校野球は、トーナメント方式ですから、毎日毎日一生懸命練習してようやく代表になれたとしても、1度負けてしまえばもう次の日、試合はありません。幼心にも、勝利を目指して懸命に頑張る選手たちに、いつしか共感していたのだと思います。

ところで私は、高校野球の指導者である須江航監督の話に、深いなと感心させられることがよくあります。その一つに、「優しさは想像力。」という言葉があります。朝会で子どもたちにも話しましたが、大人の方々にも知っていただき、子どもたちの心を一緒に耕していただきたいと思い、紹介いたします。

選手たちが、一生懸命練習している時のことでした。選手同士の声のかけ方が、ちょっと荒っぽく、強くなったことがあったそうです。お互いを高め合うために、直すところを教え合うことは大事ですが、言い方が強く攻撃的になると、それが例え正しくても相手は気分を害してしまい、関係が悪くなってしまうことがあります。

そんな場面を見かけた須江監督が、「ちょっと優しさが足りないぞ。優しさは想像力だからね。」と、選手に伝えたそうです。「優しさは想像力。」この言葉が、私の心に響きました。

監督は、「相手の立場になって『想像』してみると、声のかけ方も優しくなれる。」ということが言いたかったのです。同じことを伝えるとして、どんな言い方をすれば相手にスッと受け止めてもらえそうか、逆に、どんな言い方をしてしまうと、相手は腹が立ってしまうか。こういったことを「想像する」、つまり相手の立場を考える、これが、人間関係においては大切なことなのです。この「想像する」という考え方が足りなくて、想像せずに、自分の思ったことだけをストレートに伝えてしまうから、うまくいかずトラブルになってしまうのです。

(「日本一からの招待 須江航著」※紹介文から一部引用)

こういうことは、大人にもありがちな話だと思いますが、学校生活の中では、残念ながらよく見られる光景でもあります。子どもたちには、いつも心の中に「優しさは想像力」という言葉を置き、大いに想像力を膨らませて、優しい心と言葉で友達と関わって欲しいと思います。ご家庭でも、子どもたちの優しくない言葉のかけ方を聞いたら、ぜひ、「優しさは想像力！」と声をかけてあげてください。

さて、10月18日に、子どもたちが楽しみにしていたスポーツフェスティバルが、爽やかな秋晴れの元、開催されました。随所に想像力を発揮して、上級生は下級生に優しく声をかけてリードしていました。団体競技では、どうすれば自分のチームが勝てるかと考えた作戦を実行し、互いに協力し合あう姿が見られました。応援合戦では、応援団と皆が一つになって「横浜一」のパフォーマンスを見せ、大いに盛り上がりました。大成功のスポフェスでした。応援して下さった保護者・地域の皆様には、心より感謝申し上げます。後期も、引き続きご理解・ご協力のほど、よろしくお願いいたします。